

# 都市再生整備計画 事後評価シート

刈谷中心市街地地区  
(都市再構築戦略事業)

令和2年2月

愛知県刈谷市

様式2-1 評価結果のまとめ

都道府県名	愛知県	市町村名	刈谷市	地区名	刈谷中心市街地地区(都市再構築戦略事業)			面積	約160ha
交付期間	平成27年度～平成31年度	事後評価実施時期	令和2年度	交付対象事業費	1,273百万円	国費率	0.5		

1)事業の実施状況	当初計画に位置づけ、実施した事業		事業名							
	基幹事業	道路(都市再構築戦略事業)、中心拠点誘導施設(社会福祉施設)								
	提案事業	-								
	当初計画から削除した事業		事業名	削除/追加の理由				削除/追加による目標、指標、数値目標への影響		
	基幹事業	-	-	-				-		
提案事業	-	-	-				-			
新たに追加した事業		基幹事業	・道路(都市再構築戦略事業)(市道2-496号線他道路新設改良事業) ・地域生活基盤施設(ペDESTリアンデッキ)		検討していた事業内容が確定した事業や実施の見込みがついた事業を追加した。			・道路:対象となる路線と事業量の変更に伴い、指標3(歩行空間快適度)の数値目標を変更した。 ・地域生活基盤施設:事業の追加に伴い、事業効果を評価する指標4(刈谷駅における安全な歩行ルートの確保)を新設した。		
提案事業	-	-		-			-			
交付期間の変更		当初	-		交付期間の変更による事業、指標、数値目標への影響			-		
変更	-	-		-			-			

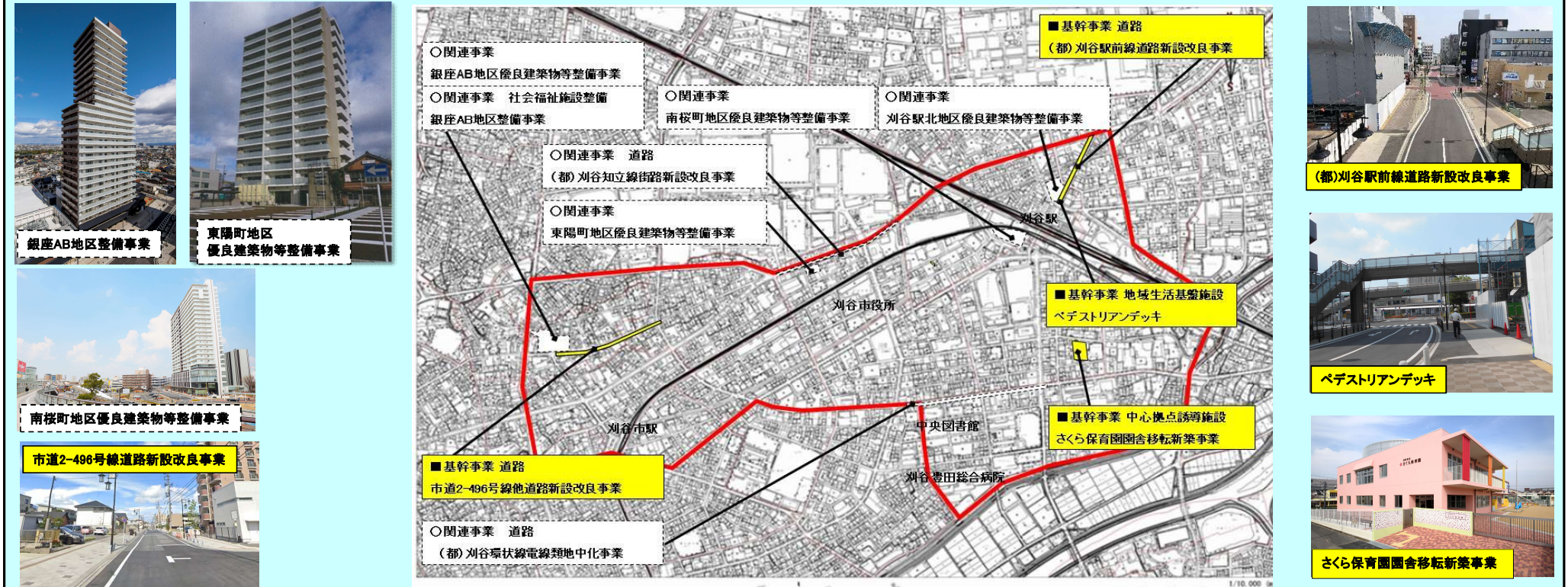
2)都市再生整備計画に記載した目標を定量化する指標の達成状況	指標		従前値		目標値		数値		目標達成度	1年以内の達成見込み	効果発現要因(総合所見)	フォローアップ予定時期
	単位	従前値	基準年度	目標年度	モニタリング	評価値						
指標1	都市機能施設充実度	%	79.0	H26	93.0	R1		100.0	○	あり なし	基幹事業のさくら保育園舎移転新築事業などにより、認可保育所、高齢者向け通所系サービス及び商業施設を新設したことが効果発現に寄与した。	-
指標2	中心市街地における定住人口	人	10,670	H26	11,020	R1		11,567	○	あり なし	優良建築物等整備事業による土地の高度有効利用によってまちなか居住を推進したこと、加えて認可保育所、商業施設等の都市機能を強化したことが効果発現に寄与した。	-
指標3	歩行空間快適度	%	49.0	H26	91.0	R1		91.0	○	あり なし	道路整備(歩車分離、透水性舗装、誘導ブロック、無電柱化)により、道路の安全性、快適性、景観向上が図られ、効果発現に寄与した。 また関連事業(優良建築物等整備事業)は歩行空間の安全、利便性向上や景観形成による快適性向上に間接的に貢献した。	-
指標4	刈谷駅における安全な歩行ルートの確保	%	27.8	H27	10.0	R1		6.3	○	あり なし	地域生活基盤施設(ペDESTリアンデッキ)により、刈谷駅北口の歩行者動線が整理され、安全かつ快適な歩行空間が確保されたことが効果発現に寄与した。	-

	指標		従前値		目標値		数値(H24)		目標達成度※1	1年以内の達成見込み	効果発現要因 (総合所見)	フォローアップ 予定時期	
		単位		基準年度		目標年度	モニタリング	評価値					
3)その他の数値指標 (当初設定した数値 目標以外の指標)に よる効果発現状況	その他の 数値指標1	-	-					-					
	その他の 数値指標2	-	-					-					
4)定性的な効果 発現状況	-												
5)実施過程の評価		実施内容				実施状況				今後の対応方針等			
	モニタリング	なし				都市再生整備計画に記載し、実施できた							
	住民参加 プロセス	なし				都市再生整備計画に記載はなかったが、実施した							
	持続的なまちづくり 体制の構築	なし				都市再生整備計画に記載し、実施できた							

## 様式2-2 地区の概要

### 刈谷中心市街地地区(愛知県刈谷市) 都市再生整備計画事業の成果概要

まちづくりの目標	目標を定量化する指標	従前値	目標値	評価値
大目標: 多世代が安全安心に暮らせる生活環境の創出	都市機能施設充実度	79.0 H26	93.0 R1	100.0 R1
目標①: 市民の生活を支える都市機能の充実	中心市街地における定住人口	10,670 H26	11,020 R1	11,567 R1
目標②: 誰もが安全・安心・快適に暮らせるまちなか居住の推進	歩行空間快適度	49.0 H26	91.0 R1	91.0 R1
目標③: 安全で質の高い交通ネットワークの形成	刈谷駅における安全な歩行ルートの確保	27.8 H27	10.0 R1	6.3 R1



**まちの課題の変化**

- ・さくら保育園などの子育て支援施設や高齢者福祉施設の整備により、都市機能施設の充実が図られ、多世代が安全安心に暮らすことができる生活環境が創出された。
- ・未整備または機能の集約により生み出された公有地を有効利用し、さくら保育園や銀座AB地区(商業、子育て支援、高齢者福祉)を整備したことで、地域のニーズに合った、都市機能が整備、更新され、課題の解決が図られた。
- ・(都) 刈谷駅前線やペDESTリアンデッキの整備により、安全で快適な歩行空間が整備された。この整備効果を高めまち全体にさらに波及させるため、公共施設の利活用を促進し、まちにひとを回遊・滞在させ、まちのにぎわいを創出する必要がある。
- ・道路整備によって、刈谷駅周辺施設の連携を図るための安全で快適な歩行空間が創出され、課題の解決が図られた。引き続き、本市の都市拠点として交通結節機能の強化を図る必要がある。
- ・銀座AB地区整備事業及び市道2-496号線他道路新設改良事業により、刈谷市駅周辺における定住人口の増加、さらに地域のニーズに合った施設整備及び交通アクセスの改善が図られた。

**今後のまちづくりの方策(改善策を含む)**

刈谷駅周辺では、整備された公共施設の利活用を促進し、まちにひとを回遊・滞在させる環境の構築や既存イベントなどと連携することによる、まちのにぎわい創出に取り組む。

# 都市再生整備計画 事後評価シート (添付書類)

## (1) 成果の評価

- 添付様式1-① 都市再生整備計画に記載した目標の変更の有無
- 添付様式1-② 都市再生整備計画に記載した事業の実施状況(完成状況)
- 添付様式2-① 都市再生整備計画に記載した数値目標の達成状況
- 添付様式2-② その他の数値指標(当初設定した数値目標以外の指標)により計測される効果発現の計測
- 添付様式2-参考記述 定量的に表現できない定性的な効果発現状況

## (2) 実施過程の評価

- 添付様式3-① モニタリングの実施状況
- 添付様式3-② 住民参加プロセスの実施状況
- 添付様式3-③ 持続的なまちづくり体制の構築状況

## (3) 効果発現要因の整理

- 添付様式4-① 効果発現要因の整理にかかる検討体制
- 添付様式4-② 数値目標を達成した指標にかかる効果発現要因の整理
- 添付様式4-③ 数値目標を達成できなかった指標にかかる効果発現要因の整理

## (4) 今後のまちづくり方策の作成

- 添付様式5-① 今後のまちづくり方策にかかる検討体制
- 添付様式5-② まちの課題の変化
- 添付様式5-③ 今後のまちづくり方策
- 添付様式5-参考記述 今後のまちづくり方策に関するその他の意見
- 添付様式5-④ 目標を定量化する指標にかかるフォローアップ計画
- 添付様式6 当該地区のまちづくり経験の次期計画や他地区への活かし方
- 添付様式6-参考記述 今後、交付金の活用予定、又は事後評価を予定している地区の名称(当該地区の次期計画も含む)

## (5) 事後評価原案の公表

- 添付様式7 事後評価原案の公表

## (6) 評価委員会の審議

- 添付様式8 評価委員会の審議

## (7) 有識者からの意見聴取

- 添付様式9 有識者からの意見聴取





土地区画整理 事業(都市再 生)									
住宅市街地 総合整備事業									

※1:事業費の大幅変更、新規追加がある場合は理由を明記のこと

### 添付様式1-② 都市再生整備計画に記載した事業の実施状況(事業の追加・削除を含む)

基幹事業									
事業	事業箇所名	当初計画		最終変更計画		当初計画からの 変更の概要 ※1 (事業の削除・追加を含む)	都市再生整備計画に記載した まちづくり目標、目標を定量化する指標、数値目標等への影響	事後評価時の完成状況	
		事業費	事業内容	事業費	事業内容			完成	完成見込み
地区再開発事 業									
バリアフリー環 境整備事業									
優良建築物等 整備事業									
住宅市街地 総合整備 事業									
街なみ環境整 備事業									
住宅地区改良 事業等									
都心共同住宅 供給事業									
公営住宅等整 備									
都市再生住宅 等整備									
防災街区整備 事業									

※1:事業費の大幅変更、新規追加がある場合は理由を明記のこと

提案事業									
事業	細項目	当初計画		最終変更計画		当初計画からの 変更の概要 ※1 (事業の削除・追加を含む)	都市再生整備計画に記載した まちづくり目標、目標を定量化する指標、数値目標等への影響	事後評価時の完成状況	
		事業費	事業内容	事業費	事業内容			完成	完成見込み
地域創造 支援事業									
事業活用調査									
まちづくり 活動推進事業									

※1:事業費の大幅変更、新規追加がある場合は理由を明記のこと





添付様式2-① 都市再生整備計画に記載した数値目標の達成状況

指標		データの計測手法と評価値の求め方 (時期、場所、実施主体、対象、具体手法等)	(参考)※1 計画以前の値 (ア)		従前値 (イ)		目標値 (ウ)		数値(エ)			目標達成度※2		1年以内の達成見込みの有無		
			基準年度	基準年度	基準年度	目標年度	モニタリング	事後評価						あり	なし	
指標1	都市機能施設充実度	%	評価時点における社会福祉施設(高齢者向け通所系サービス)の施設数、社会福祉施設(認可保育所)の収容人数、商業施設(床面積500㎡以上のスーパーマーケット)1km圏域の面積(整備計画区域内)を統計資料により計測し、これをもって評価値とする。	-	-	79.0	H26	93.0	R1	モニタリング			モニタリング			
										事後評価	確定 ●	見込み	100.0	事後評価		
指標2	中心市街地における定住人口	人	評価時点における中心部(寺横町、銀座、広小路、新栄町、東陽町、寿町、大手町、住吉町、神田町、相生町、桜町、南桜町、若松町)の人口を統計資料により計測し、これをもって評価値とする。	-	-	10,670	H26	11,020	R1	モニタリング			モニタリング			
										事後評価	確定 ●	見込み	11,567	事後評価		
指標3	歩行空間快適度	%	快適度の4項目(※)を指標として設定し、計測対象路線におけるそれぞれの項目の整備率(「計画延長」/「整備延長」)の平均値を歩行空間快適度(%)とする。 (※:歩道と車道の分離・透水性舗装の整備・視覚障害者誘導用ブロックの敷設・無電柱化整備)	-	-	49.0	H26	91.0	R1	モニタリング			モニタリング			
										事後評価	確定 ●	見込み	91.0	事後評価		
指標4	刈谷駅における安全な歩行ルートの確保	%	ア)朝ピーク時(7~9時)において、刈谷駅北口の(都)刈谷駅前線を東西方向に乱横断する歩行者数を推計する。 イ)アの歩行者数を、朝ピーク時(7~9時)に(都)刈谷駅前線を北上する歩行者数で除することにより、乱横断者の割合を算出する。	-	-	27.8	H27	10.0	R1	モニタリング			モニタリング			
										事後評価	確定 ●	見込み	6.3	事後評価		

指 標	目標達成度○△×の理由 (達成見込み「あり」とした場合、その理由も含む)	その他特記事項 (指標計測上の問題点、課題等)
指標1	目標達成度:○ 認可保育所の新設による定員の増加や高齢者向け通所系サービス施設の新設による施設数の増加、商業施設の新設による区域内の商圈がカバーされたことが要因となり、目標が達成された。	
指標2	目標達成度:○ 優良建築物等整備事業による土地の高度有効利用によってまちなか居住を推進したこと、さらに認可保育所、商業施設などの都市機能を強化したことで、定住人口が増加する要因となり、目標が達成された。	
指標3	目標達成度:○ 歩車道の分離、透水性舗装の整備、誘導ブロックの敷設、無電柱化の整備が進捗したことが要因となり、目標が達成された。	
指標4	目標達成度:○ 地域生活基盤施設(ペDESTリアンデッキ)により、刈谷駅北口の歩行者動線が整理され、安全かつ快適な歩行空間が確保されたことが、乱横断者の割合が減少する要因となり、目標が達成された。	

※1 計画以前の値とは、都市再生整備計画の作成より以前(概ね10年程度前)の値のことをいう。

※2 目標達成度の記入方法

○:評価値が目標値を上回った場合

△:評価値が目標値には達していないものの、近年の傾向よりは改善していると認められる場合

×:評価値が目標値に達しておらず、かつ近年の傾向よりも改善がみられない場合

添付様式2-② その他の数値指標(当初設定した数値目標以外の指標)による効果発現の計測

指標	単位	データの計測手法と 評価値の求め方 (時期、場所、実施主体、 対象、具体手法等)	(参考)※1 (ア)		従前値 (イ)		数値(ウ)			本指標を取り上げる理由	その他特記事項 (指標計測上の問題点、課題 等)
			基準 年度	基準 年度	基準 年度	基準 年度	モニタリング	確定	見込み		
その他の 数値指標1							モニタリング				
								確定	見込み		
その他の 数値指標2							モニタリング				
								確定	見込み		

※1 計画以前の値とは、都市再生整備計画の作成より以前(概ね10年程度前)の値のことをいう。

添付様式2-参考記述 定量的に表現できない定性的な効果発現状況

## (2) 実施過程の評価

・本様式は、都市再生整備計画への記載の有無に関わらず、実施した事実がある場合には必ず記載すること。

### 添付様式3-① モニタリングの実施状況

都市再生整備計画に記載した内容 又は、実際に実施した内容	実施状況	実施頻度・実施時期・実施結果	今後の対応方針等
なし	予定どおり実施した 予定はなかったが実施した 予定したが実施できなかった (理由 )		

### 添付様式3-② 住民参加プロセスの実施状況

都市再生整備計画に記載した内容 又は、実際に実施した内容	実施状況	実施頻度・実施時期・実施結果	今後の対応方針等
なし	予定どおり実施した 予定はなかったが実施した 予定したが実施できなかった (理由 )		

### 添付様式3-③ 持続的なまちづくり体制の構築状況

都市再生整備計画に記載した内容 又は、実際に実施した内容	構築状況	実施頻度・実施時期・実施結果		今後の対応方針等
		i. 体制構築に向けた取組内容	ii. まちづくり組織名：組織の概要	
なし	予定どおり実施した 予定はなかったが実施した 予定したが実施できなかった (理由 )			

(3) 効果発現要因の整理

添付様式4-① 効果発現要因の整理にかかる検討体制

名称等	検討メンバー	実施時期	担当部署
都市再生整備計画事後評価 庁内評価検討会	庁内関係各課係長級職員(長寿課、子ども課、道路建設課)	令和2年9月11日ほか ※新型コロナウイルス感染症拡大のリスクを低減するため、会議形式ではなくヒアリング形式での実施とした。	市街地整備課(都市再生整備計画事業担当課)

添付様式4-② 数値目標を達成した指標にかかる効果発現要因の整理

指標の種別		指標1		指標2		指標3		指標4	
指標名		都市機能施設充実度		中心市街地における定住人口		歩行空間快適度		刈谷駅における安全な歩行ルートの確保	
種別	事業名・箇所名	指標改善への貢献度	総合所見	指標改善への貢献度	総合所見	指標改善への貢献度	総合所見	指標改善への貢献度	総合所見
基幹事業	(都)刈谷駅前線道路新設改良事業	-	基幹事業のさくら保育園園舎移転新築事業など、認可保育所、高齢者向け通所系サービス及び商業施設を新設したことが効果発現に寄与したと考えられる。	-	関連事業(優良建築物等整備事業)による土地の高度有効利用によってまちなか居住を推進したこと、さらに認可保育所、商業施設などの都市機能を強化したことが効果発現に寄与したと考えられる。	◎	道路整備(歩車分離、透水性舗装、誘導ブロック、無電柱化)により、道路の安全性、快適性、景観向上が図られ、効果発現に寄与したと考えられる。また関連事業(優良建築物等整備事業)は歩行空間の安全、利便性向上や景観形成による快適性向上に間接的に貢献している。	◎	地域生活基盤施設(ベデストリアンデッキ)により、刈谷駅北口の歩行者導線が整理され、安全かつ快適な歩行空間が確保されたことが効果発現に寄与したと考えられる。
	市道2-496号線他道路新設改良事業	-		-		◎			
	ペDESTリアンデッキ	-		-		◎			
	さくら保育園園舎移転新築事業	◎		○					
提案事業	-	-	-	-	-	-	-	-	-
関連事業	銀座AB地区整備事業	◎		○		○		-	
	南桜町地区優良建築物等整備事業	○		◎		○			
	東陽町地区優良建築物等整備事業	○		◎		○			
	刈谷駅北地区優良建築物等整備事業	-		-		-			
	銀座AB地区優良建築物等整備事業	◎		◎		-			
	(都)刈谷知立線街路新設改良事業	-		-		◎			
(都)刈谷環状線電線類地中化事業	-	-	-	◎					

※指標改善への貢献度

- ◎：事業が効果を発揮し、指標の改善に直接的に貢献した。
- ：事業が効果を発揮し、指標の改善に間接的に貢献した。
- △：事業が効果を発揮することを期待したが、指標の改善に貢献しなかった。
- ：事業と指標の間には、もともと関係がないことが明確なので、評価できない。

今後の活用	増加する定住人口にも対応した多世代が安全安心に暮らすことができる生活環境の創出を図る。	引き続き都市機能の集積やまちなか居住の推進による中心市街地における定住人口の増加を図る。	未整備区間の整備をさらに進め、歩行者にとって安全で快適なネットワークの形成を図る。	刈谷駅北口周辺の歩行者動線を注視し、整備されたベデストリアンデッキや(都)刈谷駅前線と周辺施設の連携を図り、刈谷駅周辺の歩行者空間の安全性を一層強化する。
-------	---	--	---	---

添付様式4-③ 数値目標を達成できなかった指標にかかる効果発現要因の整理

指標の種別											
指標名											
種別	事業名・箇所名	目標未達成への影響	総合所見	要因の分類							
基幹事業											
提案事業											
関連事業											

※目標未達成への影響度

- ××：事業が効果を発揮せず、指標の目標未達成の直接的な原因となった。
- ×：事業が効果を発揮せず、指標の目標未達成の間接的な原因となった。
- △：数値目標が達成できなかった中でも、ある程度の効果をあげたと思われる。
- －：事業と指標の間には、もともと関係がないことが明確なので、評価できない。

※要因の分類

- 分類Ⅰ：内的な要因で、予見が可能な要因。
- 分類Ⅱ：外的な要因で、予見が可能な要因。
- 分類Ⅲ：外的な要因で、予見が不可能な要因。
- 分類Ⅳ：内的な要因で、予見が不可能な要因。

改善の方針 (記入は必須)				
------------------	--	--	--	--



#### (4) 今後のまちづくり方策の作成

##### 添付様式5-① 今後のまちづくり方策にかかる検討体制

名称等	検討メンバー	実施時期	担当部署
都市再生整備計画事後評価 庁内評価検討会	庁内関係各課係長級職員(長寿課、子ども課、道路建設課)	令和2年9月11日ほか ※新型コロナウイルス感染症拡大のリスクを低減するため、会議形式ではなくヒアリング形式での実施とした。	市街地整備課(都市再生整備計画事業担当課)

##### 添付様式5-② まちの課題の変化

事業前の課題 都市再生整備計画に記載したまちの課題	達成されたこと(課題の改善状況)	残された未解決の課題	事業によって発生した新たな課題
少子高齢化社会に対応するまちづくりを推進するうえで、多世代が交流し、安全安心に暮らすことができる生活環境の創出を図る必要がある。	さくら保育園園舎移転新築事業、銀座AB地区整備事業により、課題に対応した施設が整備された。	なし	今後は整備された公共施設の整備効果を高め、まち全体に波及させるため、まちにひとを回遊・滞在させる環境の構築や既存イベントなどと連携した、まちのにぎわい創出に取り組む。
未整備となっているまたは機能の集約により生み出された公有地を高度有効利用し、地域のニーズに合った都市機能施設を整備または更新することで、地域活性化を図る必要がある。	さくら保育園園舎移転新築事業や銀座AB地区整備事業により、公有地が有効活用されるとともに地域のニーズに合った施設が整備された。	なし	
商業及び業務機能の集積が進む刈谷駅周辺では、活力と魅力ある良好な駅前空間を創出するため、土地の高度有効利用による建物の整備や駅周辺沿道の環境改善を図る必要がある。	南桜町地区優良建築物等整備事業や(都)刈谷駅前線、ペDESTリアンデッキ整備により、課題に対応した施設が整備された。また施行中の刈谷駅北地区優良建築物等整備事業によって、さらに環境改善の効果が期待される。	今後も都市拠点として交通結節機能強化を図る必要がある。	
刈谷駅周辺施設の連携を図るため、安心して快適な歩行空間を創出する必要がある。	(都)刈谷駅前線をはじめとする道路整備やペDESTリアンデッキにより、刈谷駅周辺のアクセス改善に寄与する公共施設の整備が進展した。	交通アクセスを高める基盤整備を継続的に行う必要がある。	
刈谷市駅周辺は、将来的な開発整備による地域内の定住、交流人口増加に対応するため、交通アクセスの改善と安全安心なまちづくりを実施する必要がある。	銀座AB地区整備事業、市道2-496号線他道路新設改良事業により、課題に対応した施設が整備された。	なし	

これを受けて、成果の持続にかかる今後のまちづくり方策を添付様式5-③A欄に記入します。

これを受けて、改善策にかかる今後のまちづくり方策を添付様式5-③B欄に記入します。

添付様式5-③ 今後のまちづくり方策

A欄 効果を持続させるため に行う方策	効果の持続を図る事項	効果を持続させるための基本的な考え方	想定される事業
B欄 改善策  ・未達成の目標を達成するための改善策 ・未解決の課題を解消するための改善策 ・新たに発生した課題に対する改善策	<ul style="list-style-type: none"> <li>・さくら保育園や銀座AB地区は活用した公有地に係る管理に取組む。</li> <li>・交通アクセスを高める都市基盤の整備に取組む。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・更なる都市機能の更新や集約により中心市街地の魅力向上を図るとともに、土地の高度有効利用を推進し、まちなか居住を促進する。</li> <li>・都市施設への安全・安心な交通アクセスを確保する。</li> </ul>	

フォローアップ又は次期計画等  
において実施する改善策  
を記入します。

なるべく具体的に記入して下さい。

■様式5-③の記入にあたっては、下記の事項を再確認して、これらの検討結果を踏まえて記載して下さい。(チェック欄)

●	交付金を活用するきっかけとなったまちづくりの課題(都市再生整備計画)を再確認した。
●	事業の実施過程の評価(添付様式3)を再確認した。
●	数値目標を達成した指標にかかる効果の持続・活用(添付様式4-②)を再確認した。
-	数値目標を達成できなかった指標にかかる改善の方針(添付様式4-③)を再確認した。
●	残された課題や新たな課題(添付様式5-②)を再確認した。

添付様式5-参考記述 今後のまちづくり方策に関するその他の意見

**添付様式5-④ 目標を定量化する指標にかかるフォローアップ計画**

- ・フォローアップの要否に関わらず、添付様式2-①、2-②に記載した全ての指標について記入して下さい。
- ・従前値、目標値、評価値、達成度、1年以内の達成見込みは添付様式2-①、2-②から転記して下さい。

・評価値が「見込み」の全ての指標、目標達成度が△又は×の指標、1年以内の達成見込み「あり」の指標について、確定値を求めるためのフォローアップ計画を記入して下さい。

指標		単位	従前値		目標値		評価値		目標達成度	1年以内の達成見込みの有無		フォローアップ計画			
			年度	年度	年度	年度						予定時期	計測方法	その他特記事項	
指標1	都市機能施設充実度	%	79.0	H26	93.0	R1	確定	○	100.0	○	あり	→			
							見込み				なし				
指標2	中心市街地における定住人口	人	10,670	H26	11,020	R1	確定	○	11,567	○	あり	→			
							見込み				なし				
指標3	歩行空間快適度	%	49.0	H26	91.0	R1	確定	○	91.0	○	あり	→			
							見込み				なし				
指標4	刈谷駅における安全な歩行ルート確保	%	27.8	H27	10.0	R1	確定	○	6.3	○	あり	→			
							見込み				なし				
その他の数値指標1							確定					→			
							見込み								
その他の数値指標2							確定					→			
							見込み								
その他の数値指標3							確定					→			
							見込み								

## 添付様式6 当該地区のまちづくり経験の次期計画や他地区への活かし方

・下表の点について、特筆すべき事項を記入します。

項目		要因分析	次期計画や他地区への活かし方
数値目標 ・成果の達成	うまくいった点		
	うまく いかなかった点		
数値目標と 目標・事業との 整合性等	うまくいった点		
	うまく いかなかった点		
住民参加 ・情報公開	うまくいった点		
	うまく いかなかった点		
PDCAによる事業 ・評価の進め方	うまくいった点		
	うまく いかなかった点		
その他	うまくいった点		
	うまく いかなかった点		

### 添付様式6ー参考記述 今後、交付金の活用予定、又は事後評価を予定している地区の名称(当該地区の次期計画も含む)

刈谷駅の交通結節機能強化や公共施設の利活用を促進するため、刈谷駅周辺地区都市再生整備計画を策定し、まちの滞在環境の向上、にぎわいの創出に取り組む。

## (5) 事後評価原案の公表

### 添付様式7 事後評価原案の公表

公表方法	具体的方法	公表期間・公表日	意見受付期間	意見の受付方法	担当部署
インターネット	市のホームページに掲載	令和2年10月1日～10月15日	令和2年10月1日～10月15日	担当課を窓口とし、郵送、持参、ファクス、Eメールで意見を受付	
広報掲載・回覧・個別配布	市民だよりにより市街地整備課の窓口および市のホームページで原案を公表する旨を掲載	令和2年10月1日発行 かりや市民だより 10/1号	—		
説明会・ワークショップ	—	—	—		
その他	市街地整備課の窓口で閲覧	令和2年10月1日～10月15日	令和2年10月1日～10月15日		

住民の意見	意見なし				
-------	------	--	--	--	--

## (6) 評価委員会の審議

### 添付様式8 評価委員会の審議

委員構成		実施時期	担当部署	委員会の設置根拠	委員会の母体組織
学識経験のある委員	瀬口哲夫 名古屋市立大学名誉教授 (刈谷市都市計画審議会委員長 併任) 太田宗一郎 刈谷商工会議所会頭 (刈谷市都市計画審議会委員 併任)	令和2年11月12日	市街地整備課	刈谷市都市再生整備計画事後評価委員会設置要綱	特になし
その他の委員	三浦和美 刈谷市婦人会連絡協議会副本部長(刈谷市都市計画審議会委員 併任)				

審議事項※1		委員会の意見
事後評価手続き等にかかる審議	方法書	・評価対象の設定に当たっては、商業施設として床面積500㎡以上のスーパーマーケットを対象にしているが、コンビニエンスストア等のようなもう少し小規模な店舗を含めるなどの取り扱いを検討することも必要ではないかとの意見があった。
	成果の評価	・評価指標「安全な歩行ルートの確保」については、目標よりも多くの成果が現れたとした評価方法が分かりにくかったという意見があった。
	実施過程の評価	・工事内容の市民への周知などを、今後も一層実施するよう努めるようにとの意見があった。
	効果発現要因の整理	・人口増加に伴う需要に対応した施設整備が行われているとの意見があった。
	事後評価原案の公表の妥当性	・市の広報及びホームページによる公表方法で行われているが、計画内容への意見がなかったため、意見が出るような公表方法を検討する必要があるのではないかといった意見があった。
	その他	・特になし
	事後評価の手続きは妥当に進められたか、委員会の確認	・妥当であることが確認された。
今後のまちづくりについて審議	今後のまちづくり方策の作成	・駐輪場へのアクセス(自転車通行帯など)及び駐輪場からの駅へのアクセス(歩道など)については人の動きを考慮して検討すべきであるといった意見があった。 ・さらに駐輪場の配置については、駅へのアクセスが便利な箇所に設置される方がよいとの意見があった。
	フォローアップ	・指標を全て達成しているため、フォローアップの必要なし。
	その他	・withコロナのまちづくりには、中心市街地に密と疎の空間が必要であるため、オープンスペースや緑地などの公共空間をまちなかに充実させ、活用する検討を進めてはどうかといった意見があった。 ・駐輪場については負担できる人に受益者負担を求めるなどして、その収益をよりよいサービスが継続して展開できるように使用することなどが必要ではないかといった意見があった。 ・事業の目標や施工過程などを、市民にこれまで以上に周知し、施策を進めることが大切ではないかといった意見があった。
	今後のまちづくり方策は妥当か、委員会の確認	・駅周辺の回遊性・利便性の向上、さらに歩道などの公共空間の活用などの今後のまちづくりについては、妥当であることが確認されたが、withコロナなど、社会情勢に配慮した計画を進める必要があるといった意見があった。
その他	・特になし	

※1 審議事項の詳細は「まちづくり交付金評価委員会チェックシート」を参考にしてください。